

名古屋市胃がん検診（内視鏡検査）についての説明並びに同意書

【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早くがんを見つけ、早く治療することを目的として行うものです。その方法には、バリウムを用いる方法（胃エックス線撮影）と内視鏡を用いる方法（胃内視鏡検査）があり、いずれも有効性が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

【内視鏡検査の方法】

口または鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸球部を内腔から観察し、病変がないか確認します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことや色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

なお、生検が行われた場合は、生検については保険診療として別途請求があり、市の検診料の自己負担金の他に、保険診療の一部負担金を追加してお支払いいただくこととなります。当日は健康保険証を持参してください。また、生検により粘膜に傷ができますので、検査後当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べてください。過激な運動、長湯、旅行なども避けてください。

【偶発症】

偶発症が発生する頻度は、胃がん検診（内視鏡検査）では10万件に78件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃がん検診（内視鏡検査）による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

胃がん検診（内視鏡検査）では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- (1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）
- (2) 生検による出血、穿孔
- (3) 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- (4) 検査前からあった疾患の悪化（症状が出ていなかった疾患も含む）

なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。

MTクリニック 院長

上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、検査を受けることに同意します。

年 月 日

受診者署名

受診者代理署名

（続柄

）